

■休校措置が急に決まった学校の先生方へ

私たちが休校中の子どもたちにできることは？

——心配なのは学力か、それとも他のものか？

*いま、緊急事態宣言が全国に拡大され、学校現場は二転三転の対応を求められています。さまざまな対策をとってやっと再開したばかりの学校が、5月6日までお休みになることによる学校現場の混乱を想像します。すでにお休みになった東京などは、始業式や入学式、登校日や職員の勤務形態まで、日ごとに指示が変わり振り回される毎日でした。最終的に、「基本全員自宅勤務で学校には出てこない」となるまでには、混乱につぐ混乱だったと言ってもいいかと思います。そして、この措置も5月6日に解除されるという見込みは薄いと思われれます。そうすると、ますますコロコロ変わる方針に私たちも子どもたち・保護者も振り回され続けることはほぼ確実に思えます。

そういう中で、私たちは何を大事に考え対応していけばいいのでしょうか？ 感染拡大が最も進んでいる東京からのメッセージです。

東京・中一夫

2020.4.16

緊急事態宣言が出たあと予想される混乱

緊急事態宣言が発せられると、最初はバラバラでも結果的に一律休校措置となっていくと思います。東京などでも、学校では休みの間にどうという学習課題を与えるかということで大騒ぎとなりました。「途中の登校日などがあるか」、「明日で終わりになるか」などの判断が教育委員会を通して下りてくるので、いくら職員会で対策を考えても二転三転。現場は「いつ課題を渡すか」「ポスティングするか」などの議論が飛び交います。とにかく必死になって自習課題などをたくさん刷って用意したりすることになりました。全国の学校もこれからコロコロ変わる上からの指示を受けながら、宿題や連絡プリントを作

ることに奔走することになると思います。

休み中の課題や連絡のため、ホームページ上に課題をアップすることも考えられますが、学校でもネット授業の環境はととのっていませんし、家庭のネット環境もバラバラなので、実現できる場所は少ないでしょう。「各家庭に電話する」「連絡のつかない家庭にポスティングする」などの方法も提案されるでしょう。けれども、学校の電話の台数は少ないので、大規模校などでは全家庭への連絡も難しいでしょうし、つながらないことも多いはずです。

どのような手段もその後の感染拡大の推移によって次から次へと変更を余儀なくされます。「外出の自粛。8割の目標」などと言われる中、先生たちが出勤し、校区を回ったりすることなども、なかなかしにくくなるはずです。先生たちの勤務をどうするかで二転三転するでしょうし、最初は「緊急事態宣言が出て先生たちはみんな出勤して、休めない」という状況も出てきますが、それもあるところでスパッと「自宅待機」となるでしょう。「これも、あれも……」とやらなければとあせっていたことが、あるところで「どれもダメ」という感じになっていって、一種あきらめのムードとなっていくでしょう。

その中で私たちは何を大事に考えていけばよいか——以下に紹介する文は、本日(4.16)休校中の先生たちの間で行った話合いに向けて書いた資料を一部改訂したものです。特に休み中に私たちが何ができるかを考えたものです。参考にしていただけたらと思います。

心配なのは学力低下か？

休校措置の中で強い危機感を持たれているのが、学校がないための「学力低下」問題です。「これだけ長期間、学校がなければ学力の低下は免れない。それをどう解消するか？」——ということでみんな頭を悩ませているし、いま授業のできない学校の教員にとって、まずそれが優先順位の一番という感じにとらえられているように思えます。

〈学力低下〉が心配になると、「休みの間の課題を」ということばかりに気が行ってしまいます。そして、唯一の登校日などにもその課題を渡すことに必死になり、気づいたら各教科からたくさんの宿題を配っていることでしょう。それは私の学校でも全く同じですし、私自身も宿題を出しました。課題もないと保護者も「子どもが何もやることがない」と不安に思いますから、それはまあしょうがないことだと思います。

けれども、渡すものがそういうものばかりになったら、受け取る側はどう思うでしょう？ もちろん「しょうがないな」と思って受け取ってくれるでしょうし、「授業がないのは心配」という子は、それらをきちんと取り組んでもくれるでしょう。

けれども、もっと大事なことを私たちは考えないといけないのではないのでしょうか？

私自身、『〈学力低下〉なんか、こわくない！』（ほのぼの出版、2005）、『学力低下の真相』（板倉研究室、2005）という2冊の学力低下問題に関する本を出し、学力問題には深くかかわってきました。そのため、今回の「新型コロナウイルス感染拡大にともなう学力低下」の問題に関しても、質問を受けたりする機会が増えました。そこで、改めて私の考えをまとめておこうと思います。

* *

いま、学力低下が心配か？

最初に私の考えを述べておきますが、私は現在の休校措置による〈学力低下〉については、全く心配していません。心配しているのは、「新型コロナウイルス感染拡大」そのもので、それ以外にいくつかの心配事があり、〈学力低下〉はずっと下というか、ほとんど意識にも上らない感じです。そういうようにとらえているので、いまの学校や先生たちの努力に対しては、優先順位を意識する必要はないかと思っています。以下、その優先順位に従って書いていきたいと思っています。

まず一番大事なことは？—感染拡大の防止

いま、学校が休校になっている理由は、まさに「新型コロナウイルス感染拡大防止」のためなのです。学校としてもまずやらなければならないのは、そのための努力でしょう。少しでも感染する可能性を減らし、子どもと教員が共に感染しないことに努力するのが一番大事なことです。

けれども、まだまだ学校現場では「感染の危険性」について、みんなが基礎知識・イメージを共有しているとは言えません。そして、感染拡大の機会を自ら増やしていることが多くあります。学校を続けたり、登校させたりする場合、感染の危険は避けられません。いくら注意喚起をしても、子どもたちが集まる場を作ればどうしても感染の危険性は高まります。「子どもの感染例は少ない」と言っても、感染するのは事実です。検査しない限り本当に感染していないかどうかはわかりません。自覚なく、子どもが感染を広げてしまう危険性がありますし、何よりそれ以上に先生が感染したら、一気に子どもたちに感染させてしまいます。多くの人が集まるプロスポーツやイベントや集会などが中止になっているいま、学校という場は一つの場としては〈最も感染拡大を起こす可能性を持った場〉なのです（もちろん、病院や介護施設は除きますが）。

その自覚を現場に携わるみんなが共有することが、何より一番大事なことだと思います。すべてはその自覚のもとに、やり方や何ができるかが探られると思います。十分に気を付けている医療関係者も感染しますし、私たちよりはるかに健康で体力のあるスポーツ選手も感染します。「自分はたぶん大丈夫」と思うのは、何の根拠もないただの「願望」にすぎないということを自覚していないといけません。

学校にいても、たとえ事務仕事でも「前と同じような形ではやらない」と思ってないと、けっきょく気づいたらみんな近いところでおしゃべりしながら仕事をしてしまっているでしょう。その意味でも、子

どもたちがいない学校で一番感染拡大の危険があるのが、「職員室」や「会議室」です。いまの学校は空き教室だらけなのですから、そういうところで一人で作業するならばマスクを外してやってもかまわないわけです。狭い印刷室など、いま印刷機の使用頻度が高まっている中、換気などには特に注意したいものです。

優先順位の一番で書いてきたことを一言で表せば、「命を守る」ということにつきます。そして、それを子どもたちに伝えることです。

(以上は、すでに自宅勤務体制になっているところには関係ありませんが、学校が開いているところはどこでも気をつけた方がいいことだと思います)

次に大事なことは？——不安な気持ちへの対処

では、2番目に大事なことは何でしょう？ 私は、「子どもや保護者がかかえている〈不安〉にどう対処するか？」ということだと思います。それは私たち自身にも関係します。

けっきょく、いまの状況では「みんなが漠然とした不安」を抱いており、中には「激しく不安」という人もいます。ましてや自分や家族の体調面で不安をかかえていたり、仕事の内容から感染の危険をかかえていたりする人も少なくないはずです。中には、身近で感染者が出たことによって、まさに「身近な問題」と恐れている人もいます（ちなみに、私の住む市でも感染者は複数出ています）。さらには「仕事が続けられるか？」とか、「資金繰りに頭を悩ませる」など、社会経済的な問題まで入れたら、不安でない人などいないはずです。そう、いま私たちはみんな「不安」の中に生きています。

そういう「不安感」は落ち着いた考えや冷静な判断を大きく阻害します。本当かどうかわからなくても、とにかく心配な情報に飛びついたり、買い占めの行動などにみんなが走るのも、そこには「不安感」があるからです。そして、その不安感をどう解消すればいいかがみんなわからないでいます。

不安感が強ければ、当たり前にもやることも手につかなくなります。何をやっても、「こんなことをやっていいのだろうか?」とか、「このあとどうなるだろう?」と考えてしまったりします。不安になったときは、そうなるってしまう自分に覚えはありませんか?

そういう時、「不安に思ってはだめだ」とか言われても、どうしようもないでしょう。それより、ただ不安な気持ちを誰かに聞いてもらえたりすることの方がずっと大事でしょうし、「不安に思ってるのは自分だけじゃない」とわかることも大事です。「自分だけじゃない」とわかるつながりが、いま大事だと思うのです。

そして、少しでも不安の高まりを防ぐのは、「正しい知識・イメージ」だと思うのです。不安感はこの自分の理解できないものであればあるほど大きくなります。いまの不安感の多くは「新型」「ウイルス」「感染拡大」などの言葉が、自分にとって納得できるようなイメージがないままに飛び交い、自分がどうしていいかわからない状態になっていることが大きいと思うのです。

ですから、ウイルスや感染症に関しての正しい知識は不可欠だと思います。その意味で〈かぜとインフルエンザ〉や、「新型コロナウイルスって?」の資料や動画などが、大事になってくるとして発信しているわけです。

その意味で、宿題のプリントなどだけでなく、私たちが作ったプリントなどを配布していただいたりするのいいのではと思っています。広くその資料の拡散をお願いしたのも、いままで述べてきた2つの問題に対して少しでも助けになればと思ってのことです。

以上は、優先順位が上だったので、僕なども意識して動いたことです。以下はそれ以外の心配になることで、これからどういう対応が考えられるか、みんなで知恵を出し合いたいと思っていることです。

休んでいる子たちの安全は?

次に出てくる心配は、家にいる子どもたちの安全です。我が家の子どもたちが小学生・中学生・高校生ぐらだったころのことを想像します。いま、学校がなくなって子どもたちが家にいたら、どれだけ家はたいへんでしょう？ さらにはお父さんも仕事が休みになってめずらしく家に長期間いたりしたら、家の中はどんな状況でしょう？

みんなやりたいことがやれずにフラストレーションを溜めていきますし、いまだこの家庭でも「それぞれの不満」の圧力が、さまざまな形で高まっているのではないのでしょうか？

保護者は家でゴロゴロしている子どもたちには、「勉強しなさい（したら?）」などと言うでしょうが、ずっと学校が休みの子たちが意識高く自分で勉強するとはなかなか考えられません。「学力を下げないように勉強させないといけない」と保護者が不安に思っていたら、ますます衝突は多くなるでしょうし、決定的に関係が悪くなってしまう心配があります。だから、ただただ「学力低下を防がない」という取り組みには賛成できません。

そういう中ではささいなことで大きな衝突やいさかいが起こる危険性が高いですし、家庭内暴力の心配が報道されたりしていますが、どのようにそれを防ぐかという知恵が求められています。

この期間はかなりの部分、勉強に限らず家族のみんながやっていることに関して、「見て見ぬふり」とか、「ほっとく」とかいうことが大事になってくるだろうと思います。特に家事の負担が何倍増にもなるお母さんの負担をどう減らすかとか、気持ちの持ちようがすごく大事になってくるでしょう。

そして、みんなでワイワイ本音を出し合いながら、お互いにヒントになりそうなものを見つけられるような「場」が必要に思います。

休んでる子たちとどうつながるか？

そして、教師（担任）としての問題です。今までなら学校で毎日触れ合っているのに、子どもたちとの関係づくりは目の前の子たちと

直接触れ合うことでできました。けれども、いまは子どもたちが学校にいませんし、見ることも触れることもできません。そういう子どもたちとどうつながるかということが、私たちにとっての大きな問題です。

いま、どこの学校でも休んでいる子たちとの連絡をどうとろうか、苦慮しているところだろうと思います。指定した登校日を設けるところもありますが、それがだめとなったところも多くあります。家に届けるというのも一つの手ですが、そもそもの外出が制限されている中、そういうやり方はプラスとマイナスの両面があるので、判断にも困るでしょう。ネット環境もバラバラなので、一斉の授業や連絡もなかなか難しいでしょう。

そういう中、どうやって子どもとつながっていくか？ ほとんどの学校で、担任と子どもとの触れ合いもないまま、膨大な宿題を渡しただけで子どもたちとお別れとなっているでしょう。これから少なくとも1か月の間、まったく接触がなく学校が再開されたら、その時がまったく0からのスタートとなります。そこから関係づくりも始まるわけです。

けれども、いま、離れている子どもたちと何らかの形でつながりを作れて、子どもたちとの間でやりとりが続けられたらどうでしょう？ いま、どういう形でもいいから、子どもたちに「みんな大丈夫？ 元気してる？ 待ってるよ」というようなメッセージを届けられないかと思うのです。それができれば、子どもたちも私たちもずっとらくに再スタートをきれるでしょうし、子どもたちは先生と会えるのをたのしみにしてくれるでしょう。

そこまでのことは期待しすぎだとしても、少なくとも子どもたちに「先生が気にしてくれてる」と感じてもらいたいのです。それは他人が自分を気にしてくれているという意識を生むかもしれないですし、勉強にせよ何にせよ、少しは何かをやるはげみにもなるかもしれ

ません。このまま何もせずに再開を迎えたら、その間の子どもたちの私たちへの印象は、ただただ「たくさん宿題を出した先生・学校」としか残らないかもしれないのです。

そういう意味で、いま私たちがどう子どもたちとつながりを作るか、その具体的な方法を探りたいと思います。SNSの時代ですから、そういうものを使う手はないかということも知りたいですし、アナログ的な手紙なども効果は大きいと思います。それぞれの人の知恵を出し合ってみませんか？

ひまな時間をどう過ごすか？

最後は、私たち自身にも直結する「ひまになった時間をどう過ごすか？」ということに関して、いろんな知恵を出し合いたいです。何より、子どもたちに必要なのは〈遊び〉です。この時期、家で夢中になってやれる〈遊び〉についても考えたいです。もちろん、その中には知的好奇心を刺激するような知的な遊びを含みます。子どもが「やってみよう」と思うようなものがあればぜひ伝えたいですし、きっとそういうものは自分にとっても役に立つでしょう。

以上、思いつくままに一気に書きました。これが私の心配すること、気になっていることで、案の定、〈学力〉のことなど出てきませんでした。〈学力〉をどう考えるかは、またいつか述べる時もあるとは思いますが、このような現実問題に対していろいろ頭を使い、知恵を出し合えることにもっとも〈学力〉を感じます。そして、そういう〈学力〉は個人一人が身につけるものではなく、「みんなで知恵を出し合う中でみんなが共有するもの」というイメージを僕は持っています。

一人一人が子どもたちの顔を思い浮かべ、「何ができるか？」を考え始め、やれることが見えてきたら、「ひま」とか思うことはうんと減るだろうと予想しています。子どもたちが学校のない時間をどう過ごすかを考える上でも、私たち自身が「この時間をどう過ごすか？」

が身近に迫った問題です。そこにわくわくするような「たのしみごと」
を見つけてやっていけるよう、みんなの知恵を出し合えたらと願っ
ています。